

月は孤独の海に眠る

公開日

2015
10.25

登場人物

シュエ	：	白い髪に金色の目をもつ少女。自分が何者なのか、知りたがっている。
カイト	：	シュエが海で出会う青年。夢にでてくる青年と瓜二つの容姿をしている。
リナ	：	「海の御伽噺」について調べている女性。
アンシエル	：	リナと共に「海の御伽噺」について調査している男性。
リュウシン	：	シュエの伯父。彼女のことを妙に気にかけている。
あのひと	：	シュエの夢にでてくる見知らぬ青年。
カミサマ	：	街に古くから伝わる御伽噺に登場する存在。海の底に眠っているというが……？

◎シユエの夢。

夜の海辺にやってきた見知らぬ青年。

あのひと

……どこにいる？

◎海辺で誰かを探しているらしい青年。

その声にこたえるように水面から顔を出した少女。

カミサマ

…えへへ！ 待ってたよ！

あのひと

ああ、そこにいたのか

◎青年、少女の傍に近寄り、砂浜に腰掛ける。

二人は月を見上げる

カミサマ

ねえねえ、今日もきれいなお月さまだね！

あのひと

そうだな。 ……なあ、

カミサマ

？ なあに？ ……愛している。 ずっとずっと…

あのひと

え？ な、なあに、急に…

カミサマ

あの、えへへ…えっと、あの、あのね…わたしも…

◎照れる少女が青年に言葉を返そうとしたとき、突然の銃声が響き渡った。

カミサマ

………え？

◎海が荒れ始める…

シユエ

……！

◎シユエ、夢から目覚める。

シユエ

また…この夢…

あのひとはいつも、目の前で死んでしまう…

そして「わたし」は泣き叫んで、…海が、荒れて…

◎部屋に入ってくるリュウシン

リュウシン ……朝だよ、そろそろ起きてはどうだね。
シユエ あ……（ここから艶めかしい少女に）リュウシンさま……おはようございます……
リュウシン おはよう、シユエ。 ……どうした、顔色があまりよくないようだが……
シユエ いえ、別に……
リュウシン ……なら、良いのだが。 君の体調が優れないと、母上が心配するからね。
シユエ ……ええ、そうですね。
リュウシン 母上はいつもいつも、わたしのことを心配してばかり……ふふふ
シユエ ……母上は君のことを、本当に愛しているんだよ。……それはもう、狂おしいほどに、ね。
さあ、朝餉の用意ができています。支度したら、おいで。

◎去っていくリュウシン

シユエ ……ええ。 分かりました。

◎場面転換。リナとアンシエルの研究所。

ノックもせず突然リナの部屋に入ってくるアンシエル

アンシエル リナ、起きてる？

リナ ……アンシエル。ノックくらいしてください、と何度も言っているでしょう

アンシエル はははは、ごめんねえ。

リナ ……まーた分厚い本を読んでるねえ まさか、徹夜？

リナ まったく、あなたは……

アンシエル （溜息）……ええ、まあ。 文献を読み漁っていたら、朝になってしまっ…

リナ 君は本当に研究熱心だねえ。

アンシエル ……んで、そこまでやった成果はいかほど？

リナ 大したことは。……すでに分かっていることばかりでした。 ……やはり、不自然です。

アンシエル なにが？

リナ 街に古くからある御伽噺、伝承……いろいろな憶測や解釈があってもおかしくない。

アンシエル それなのに、どの文献にも同じことしか書かれていない……

リナ 「海の底にカミサマがいて、そのカミサマは孤独ゆえに、心がバラバラになってしまいました。

アンシエル そのバラバラになった心の欠片は人の姿をもって、人間の前に現れるようになりました。」……

リナ ふんふん、確かに不自然だねえ。君は鋭いねえ、さすが、僕の部下だ！

アンシエル ……じゃあそんな君に、一つアドバイスをあげよう。

リナ アドバイス？

アンシエル 文献が必ずしも正しいとは限らない。書き手によって真実を捻じ曲げることだって可能。

リナ ……不都合なことは、すべて書きなおしてしまうことだってできる。

アンシエル ……それは、今語り継がれている話が全て嘘でもあるかもしれない、ということですか。

リナ さて、全てが嘘、かどうかは分からないよ。でも、完全なる真実、ではないだろうね。

アンシエル ……

リナ リナ、見つけて御覧よ。

アンシエル 海の底に眠る、御伽噺の真実を、さ。

◆シーン1 邂逅、銀の月の下で。

シユエ ……わたしは一体、何なのだろう……？

◎夜の海辺にて。「自分自身」について思いをはせるシユエ。
いつも夢で見る「二人」の姿が脳裏に思い浮かぶ……

カミサマ ねえ、見て！ 今日のお月さまもきれい……！

ねえねえ、あなたはお月さま、すき？

あのひと ……ああ、好きだ。 とくに今日みたいな満月は。

満月になると、お前がより一層美しく輝くから、な。

カミサマ ! ……えへへ

シユエ ……海に來ると、いつも思い浮かぶ。あのひとの隣で嬉しそうに笑っている、「わたし」の記憶。

でも、伯父上の傍にいるときは、また違う……伯父上と母上を深く憎む、「少年」が……

◎ふと、足音が聞こえた。

シユエ ! 誰？

カイト ……! 人が、いるのか？

◎近づいてきたのは、一人の青年。
その青年の姿を見て、シユエは驚く

シユエ ……あ……!?

カイト ごめん、驚かせるつもりはなかったんだけど、ど…… どうしたの？

シユエ ……カイト、ト……？

カイト え？ なんて俺の名を……？

◎その青年は、夢の中に出てくる「あのひと」瓜二つの姿をしていた。
脳裏に浮かぶ、「二人」の姿。

カミサマ えへへ……カイト、だいすき。

あのひと ああ、俺もだよ

シユエ あ……い、いえ……その……し、知り合いに、似ていたものだから……

カイト 知り合いに？ へえ、同じ名前だなんて偶然だな。

シユエ それよりも、あの、君……

シユエ ! わ……わたしは、海のバケモノではないわ。

シユエ よく御覧なさい。髪は確かに白いけれど、眼は金色……

カイト ……あ、ああ、そうか。海のバケモノは、白い髪をしているんだっけ。
不快な思いをさせたなら謝るよ。

シユエ でも、俺が驚いたのは、君がバケモノだと思ったからじゃなくて……（少し照れている）
え……？ では、何故……？

カイト その……君のその白い髪が、というか……君自身が、
銀の月に照らされて、あまりに美しかったから……
シユエ ……

◎脳裏に浮かぶ、「あのひと」の言葉。その言葉と、カイトは同じことを言う。

あのひと
俺はお前のその白銀の髪と金色の瞳を美しい、と思う。
月に照らされて、きらきら輝いて、神秘的で、まるで——……

カイト その……神話にでてくる、女神のようだな、と思って……

シユエ ……。 ……ふふふ、恥ずかしくないの？ そんなことを言って……
カイト え、……あ、いや、その……（恥ずかしい）

だ、だけど本心なんだ。本当に美しいと思って……

シユエ ふふふ、おかしなひと。 ……夢の中のままなのね。（吹き）

カイト え？

シユエ ふふ……なんでも、ないわ。

◎暫くの間。海が揺れている。

シユエ あなた……どうして、この海に来たの？

カイト え？ ……どうしてだろう。なんとなく眠れなくて……気づいたら、海に足を運んでいたんだ。

君こそ、どうしてこんな夜更けに、一人で……？

シユエ わたしは……わたしは夜にしか、一人になれないから……。

それに、夜の海にいと、落ち着くの……。

カイト それは確かにそうかもしれないな。静かで穏やかな波の音だけが聴こえてくる……

……もしかして俺は、君の一人の時間を邪魔してしまったかな……？

シユエ いいえ。そんなこと、ないわ。むしろわたしは、あなたに会えてうれしいの。

カイト え？

シユエ ふふふ。 ……ねえ、また明日の夜も、ここに来てくれないかしら？

カイト え……。 い、いいのか？

シユエ ええ。 この海で、あなたに会いたい。あなたと一緒に、この海にいたい。

駄目、かしら……？

◎海が静かに揺れている……

◎リナは部屋で文献を読んでいる。

リナ

……『海の御伽噺について。』

我々が生きる街には、広い海がある。その海にはいつの頃からだろうか、御伽噺が存在していた。海の底に、神様が棲んでいる。しかし、誰も訪れない深い深い海の底で長く過ごしていた神様は、孤独を感じるようになり、やがて、孤独に耐えきれずに心が砕け散ってしまう。』

◎ページを捲る

リナ

『砕け散った心の欠片たちが人の姿を持ったものこそが、今、我々の街に度々現れる、白い髪に赤い目をした、「忌むべき海のバケモノ」と呼ばれる者たちである。』

この「バケモノ」たちは神様の心の欠片であるから、生まれたらすぐに海に還し、神様の心を元に戻さなくてはならない。もしなければ、海は神様の加護を受けられなくなり、荒れ果ててしまうだろう。』……

◎文献を閉じる

リナ

……この本も、やっぱり同じことしか書いていない……。
一体どうすれば、アンシエルの言う「真実」を知ることができるの……？

◎苦悩するリナ。そこに、ノックなしで突然部屋に入ってくるアンシエル。

アンシエル

リナ？

リナ
アンシエル

……！ だからノックを、…… はあ、もういいです。何か御用ですか。
ん？ いや、特に何も。ただ、君ずくずくつと書庫に籠っているからさあ……

若い女の人が、こんな暗くてじめじめした場所にいるのは良くないと思って、散歩に誘ってきたんだよ。

リナ

若い、と言っても、もう30ですよ。まあ、アンシエルからすれば若いのかもしれません。

アンシエル

……散歩、ですか。

リナ

……。そうですね、休息も大事ですね……

アンシエル

その通り！ つてことで、早速行こう！

リナ

……まったく、あなたは…… ふふふ、はい。すぐ支度します。

◎場面転換、街。

昼間の暖かな日差しを浴びながら、二人は散歩をする。

アンシエル
いやあ〜、良い天気だねえ！
リナ
そうですね。

◎暫く歩く二人。

アンシエル
…：ねえ、リナ。
リナ
はい？

◎呼ばれて立ち止まるリナ。アンシエルも立ち止まる。

アンシエル
ずっと気になっていたんだけど、君はどうして『海のカミサマ』の真実を知ろうとしてるの？
リナ
え？
アンシエル
ただの知的好奇心だけじゃ、こんなまったく進まない研究なんてやってられないと思うんだよね。
何か、理由でもあるのかな〜って。
リナ
…：。 …：アンシエルには、まだ話していませんでしたね。

私…：妹がいたんです。「忌むべき海のバケモノ」であった、妹が…：
私の妹は、母の腕に抱かれることもなく、誰かに愛されることもなく海に還されて…：いえ、『殺されて』しまった。…：そんなことが許されていいのか、私は知りたい。
そう思っって、『海のカミサマ』について調べはじめたんです。

アンシエル
…：ごめん、聞かないほうが良かったかな？
リナ
いえ。アンシエルには、いずれ話さなくてはと思っていたので…：
ふふふ、アンシエルもそんな風に気を使えるんですね。
アンシエル
ひどいなあ。僕は紳士だよ？ …：でも、そうか。なるほど…：

リナ
アンシエル？
アンシエル
ねえ、もし真実が、そんな君にとって、ひどく残酷なものだったとしても、君は受け入れられる？
リナ
…：。 ええ、…：受け入れます。 どれだけ残酷な真実でも、私は目を背けたりしない。
アンシエル
…：君は強いなあ。 …：そっかそっか、君みたいな優秀な部下がいて僕は嬉しいよ。
リナ
じゃあ、そんな君に、もう一つアドバイスをあげよう。
…：なんですか？

アンシエル
この街の今は、絶望の末に生まれた。
リナ
しかしそれを認めたくなかった人間は、それを隠そうとした。
アンシエル
絶望の末に…：？
リナ
…：この街にはね、あまりにも悲しいものが多すぎる…：
アンシエル
目を背けたくなってしまうほどに、ね。

◎シユエの夢。夜の海辺で寄り添う「二人」の姿。

カミサマ
あのひと
カミサマ
あのひと
カミサマ

…：ねーえ、カイト？
どうした？
ずっとずっと、一緒にいたいな。
ずっと一緒にいるじゃないか。今だって、こんな近くに…：
そうじゃなくてね、…：夜の、この海辺だけじゃなくて…：朝もお昼も、ずっとずっと。
…：わたしが人間の女の子だったら、ずっと一緒にいられるのかなあ…：？

◎目覚めるシユエ。まだ朝は来ていない。

シユエ

…：海にいる「わたし」は、いつもいつもあのひとのことを想って、笑って、
時には少しだけ悩んで…：

◎起き上がり、部屋の外に出る。廊下を歩く

シユエ
リュウシン

…：「海のわたし」はとても好き…：ずっと、幸せそうだから。でも…：
…：シユエ、こんな夜更けに、どこに行く気かな。

◎シユエを呼び止めるリュウシン

シユエ
リュウシン
シユエ

(艶めかしい少女になる) …：あら、リュウシンさま…：
あまり夜遅くに出歩かないでくれ。君の、
母上が心配するから、でしょう…：？
リュウシンさまは、いつもいつも、母上のことばかりですね…：
そんなことは、

リュウシン
シユエ
リュウシン
シユエ

あなたはいつも、母上のことしか考えていない。母上がわたしを愛しているから、
わたしを愛そうとする。もし母上がわたしを愛していなければ、あなたは、わたしなど
放置しても構わないと思っている…：でも、良心が痛むから、優しいフリをして傷つけるの…：
…：(言葉を探している)
あなたを見ると、胸が痛むのです…：信じていたのに。もしかしたら、愛してくれるのかも、と。
あなたは優しくかったから。でも、…：違った。
…：！

リュウシン
シユエ
リュウシン
シユエ

怖かった…：組み敷かれて、衣服を乱されて、抵抗することもできずに、
大好きなひとの目の前で…：
やめる、シユエ…：
あなたはいつも、母上のために動く。私は知っている…：
母上のために子どもを殺し、母上のために子どもを傷つけ、母上のために私を生んだこと

リュウシン

もう、やめてくれ……！

シユエ

……もう、行きます。待ち合わせをしているの。

大丈夫、わたしはバケモノではないから、海に溶けて行ったりしない。必ず、戻ってきますわ……。

◎リュウシンに背を向けて歩き出すシユエ

場面転換、夜の海辺。カイトがシユエを待っている。

カイト

……！ 本当にまた会えるなんて、思わなかった……

シユエ

(普段のシユエに戻る) 当然でしょう？ わたしがあなたに、会いたいと言ったのだから

◎シユエ、カイトの傍へ歩み寄る。

カイト

そう、だけど…… でも、どうして？

シユエ

……あなたなら、教えてくれる気がしたから……

カイト

え？

シユエ

わたしが一体、何なのかを……

カイト

君が一体、何なのか？

シユエ

わたしは……「わたし」というものが分からない。

いつも夢に見るの。優しい男の人の隣で幸せそうに微笑んでいる「わたし」の記憶を。でも、愛されたいと嘆く哀れな「少年」の記憶が浮かんでくることもある……

対峙する相手によって、「わたし」の記憶は変わっていく……

「わたし」の記憶は、存在は、一体どれが本当なのか分からない……

カイト

……

シユエ

でも、あなたといると、どの記憶も浮かんでこない。

カイト

だから、あなたの傍にいれば分かる気がするの……

シユエ

……良くは分からないけど、でも、君がそんな風に思ってくれるなら、

カイト

僕は喜んで君の傍にいるよ。

シユエ

……わたし、すごく変なことを言っているわ。それなのに……

カイト

あなたは本当に、おかしなひとね。

シユエ

そう、かもね。でも……俺も、君が一体どんなひとなのか知りたい、と思うから……

シユエ

……ふふふ ありがとう……

◎海が揺れる……

◆シーン4

白き子ども、その言葉は誰のもの？

◎真夜中。眠れずにベッドの上で寝返りを何度も打ちながら考え事をするリナ。

リナ ……この海に眠る、御伽噺の真実……

◎アンシエルの「不都合なことは、すべて書きなおしてしまうことだってできる。」
「この街の今は、絶望の末に生まれた」という言葉が頭をよぎる

リナ 海の底に沈んだ真実……隠された真実…… ……（溜息）

◎身体をおこす

リナ ……駄目、ちっとも眠れない。
……海に行ってみようかしら。何か分かるとは思えないけど……

◎場面転換、夜の海辺

リナ ……相変わらず、静かな海ね。 落ち着くわ……

◎静かな波の音に混じって、カイトとシユエの会話が聴こえてくる（シーン3の会話一部）

リナ ……？ こんな夜更けに、誰かいるのかしら…… !

◎声がするほうを見てみると、白い髪の少女を見つける。

場面、シユエとカイトに

シユエ もうそろそろ、帰らなくちゃ……
カイト そう、か…… 少し名残惜しいけど、夜も遅いし、仕方ないな……
シユエ ……明日も、来てくれる？
カイト あ、……ああ。 君が来てほしいと言うなら、いつだって……
シユエ ふふふ……じゃあ、明日もここで、待っているわ……

◎シユエ、歩き出す。

場面、リナに戻る

リナ あの子、白い髪……まさか、海のバケモノ……？
！ このままでは……

◎海から去っていくこうとするシュエを追いかけるリナ

リナ 待つて！
シュエ え？ あ……（幼い少女になる）
リナ 急にごめんなさい、あなたに少し……
シュエ 「おねえちゃん」……？
リナ ……え？
シュエ ……なにか用事？ そんなに大急ぎではしってきて……おかしなおねえちゃん
リナ あなた、何を……
シュエ うふふ、わたしは、海のバケモノじゃないよ。目がきんいろ、でしょう？
リナ え、……ええ。あ、あの、あなたは一体、何なの……？
シュエ わたしが、一体、「なに」か？

◎不思議そうに首を傾げるシュエ。 その姿は、幼い少女にしか見えない。

シュエ ……わたしにも、わからないの。
リナ わかるのは、「わたし」は、おしゃべりする人によって、変わってしまうということ……
シュエ 多重人格、ということなの？
リナ たぶん、そうじゃないの。 ……おねえちゃんを見たときにね、思い浮かんだことがあるの。
シュエ 泣いている、おねえちゃんのお顔。
リナ 連れて行かないであげて、って……ずっと誰かに言っているの。
シュエ まさか、あなた……
リナ 「おねえちゃん」は、きつと、とても優しいひとなのね。 だからわたし、覚えている……
シュエ でもね、もう、お家に帰らないといけないから……だから、さよなら。 ……おねえちゃん

◎シュエ、去っていく。

リナ ……待つて、……待つて、おねがい……

◎力なくシュエを呼び止めるが、彼女の背中があつという間に見えなくなってしまうた。

リナ あの子は、一体？ まさか……。いえ、そんなはずはない……
あの子は確かに、海に還された……私はこの目で確かに見たもの。
でも、じゃあ、彼女は、誰……？

◎海は静かに揺れ続ける。

◎海から帰ってきたシユエを迎えたのは、リュウシン

リュウシン
お帰り、シユエ

シユエ
(艶めかしい少女になる) ……あら、リュウシンさま…

ふふふ、言ったでしょう…？ 必ず戻って来る、と…

リュウシン
…

シユエ
なんだか疲れてしまいましたの…だからもう、休みます。

リュウシン
おやすみなさい、…おとうさま。

……！

◎微笑み、去っていくシユエ

場面転換、シユエの部屋。

シユエ
分からない…わたしは一体、なんなの…？

◎シユエ、布団の上に座り込む

シユエ
いつも夢に見る、しあわせそうな「わたし」。

伯父上や母上の傍にいと憎しみと怒り、そして悲しみを思い出す「わたし」。

そして…さつき、知らない女の人を見た時に現れた、幼い「わたし」。

本当のわたしは、一体、どれ…？

◎場面転換。リナとアンシエルの研究所。

アンシエルの部屋に飛び込むリナ

リナ
アンシエル……！

◎眠るアンシエルを必死で揺さぶる。

眠りから起こされるアンシエル

アンシエル
んん…？ リナあ…？ いつもノックしろーって言うくせに、自分はしないんだねえ…

リナ
起きてください！ アンシエル！ どうでも報告したいことがあるんです……っ！

アンシエル
明日じゃ駄目え……？

リナ
お願いです、アンシエル……！

◎リナの必死さに、流石に体を起こすアンシエル

アンシエル ……やれやれ、君がそんなに興奮するなんて、よっぽどのことなんだろうねえ……（欠伸）
リナ あ……す、すみません、あの……
アンシエル あははは、平気平気。ちよっと、つていうか、だいぶ眠いけど。
……それで、何があったの？
リナ ……さつき、海に行ったんです。
アンシエル うん。
リナ 海に、……人間の男と、白い髪に金色の目をした少女が、いて……
アンシエル ……人間の男と、白い髪に金色の目をした少女……？
リナ はい。はじめは、「忌むべき海のバケモノ」なのかと思いました。
でも、バケモノは赤い目をしている……それに彼女は……なんというか、その……
私の妹の記憶を持っているように思えて……
アンシエル 君の妹の？
リナ ええ……。私を見て、少女は「おねえちゃん」と呼び掛けてきました。
それだけならばおかしくはないのかもしれませんが、その前まで他の人間と会話していたとき
とはまったく雰囲気異なっていて……まさに幼い子どものような感じで……
アンシエル なるほど……。……。

◎考え込むアンシエル

リナ アンシエル……？
アンシエル ……（溜息）。いつかそんな日が来るかもしれない、とは思っていたんだけどね……（呟き）
リナ どうしたのですか……？
アンシエル ……リナ。君は、真実を知りたいんだよね。
リナ え、あ、……はい。もちろんです。
アンシエル 君は、どれだけ残酷な真実でも受け入れる、と言ったね？
リナ ……はい。受け入れてみせます。
アンシエル ……ん。よし、分かった。やっぱり君は、良い部下だ。
リナ ……そんな君に、最後のアドバイスをあげよう。
アンシエル 答えを教えてくださいるわけではないのですか？
リナ 教えてあげるさ。でも、答えを知る前に前提条件を理解しておいてほしいんだよ。
アンシエル ……不都合なことはすべて書きなおせる。この街の今は、絶望の末にできた。
リナ そして、……その絶望は、未だに街を覆っている。空に浮かんで、じっとこちらを見ている。
アンシエル 空に……もしかして、あの、銀の月……？
リナ さて……アドバイスという名の、前提条件を君に全て伝えたところで、答え合わせだ。
リナ じゃ、行こうか。
アンシエル どこへ？
アンシエル この研究所……いや、この屋敷の奥底に眠る、「唯一真実を知る場所」に、ね。

◆シーン6

夢の中、答えはすぐそこに。

シユエ

……ん……ここ、は……

◎シユエ、見知らぬ場所で目覚める。(夢の中)

シユエ

ここ……水、……海の、中？

……きっと夢の中ね。息ができるもの。

◎海の中らしき場所を探索するシユエ

ふと、遠くで何かが光った。

シユエ

……？ なにか、今、光ったような……

カミサマ

どこに……いるの……？

シユエ

！ この声……夢で見る、「海のわたし」の……

カミサマ

ずっと……待って、いるのに……

シユエ

待っている……？ もしかして、「あのひと」のことを？ でも、あのひとは……

カミサマ

はやく、見つけて……ひよりは寂しいよ……おねがい…… (泣いている)

◎夢から目覚めるシユエ。体を起こす。

シユエ

……。いつも、夢を見る……とても幸せな夢。でも、あのひとは死んでしまった……

それなのに、「海のわたし」は、あのひとを待ち続けているの……？

シユエ

……カイト……カイトは、あのひとと同じ顔をしている……

わたしがカイトに出会ったのは、「海のわたし」が「あのひと」を探しているから……？

◎場面転換。リナとアンシエルの研究所の一室。
窓から月が見える。

アンシエル

綺麗な月夜だねえ。……二日後くらいには、満月になりそうだ。

リナ

ええ、そうですね。……それで、あの、

アンシエル

ははは、せっかちさんだね。……ここだよ、

◎アンシエル、本棚から一冊本を取り出す。
すると、本棚がずれて、隠し扉が現れた。

リナ
！ 隠し扉……!?

アンシエル
うん。凄いやねえ、こういうのお話の中とかでなら良く見るけど、本当に作っちゃうなんてさあ……

リナ
……

アンシエル
さて、行こうか。

リナ
……はい……

◎扉をあけると、階段があった。

二人は階段を降りていく。

階段を降りた先にはまた扉があり、アンシエルはその扉を開ける……

リナ
！ ここ……

アンシエル
暗いから注意してね。……ここは、僕の祖父の書斎だった場所だよ。

リナ
アンシエルの、祖父……？

アンシエル
……祖父は、この街の「今」を作り上げた、いわば元凶なんだ。

リナ
祖父の遺言に従って、僕たち一族は真実を隠ぺいする役目を負わされた……

リナ
……！

アンシエル
ずっと黙っていてごめんね。全部知っているのに、一生懸命妹さんのために調べている君に何も言わないで……

リナ
謝らないでください。でもなぜ、今真実を、こうやって教えてくれようとしているのですか？

アンシエル
うーん、そうだなあ……君の真っ直ぐさに、応えたいと思ったから、かな。

リナ
何よりも、海のカミサマが海の底から出てきてしまった……もう隠すのは無理だろう。

リナ
カミサマが、海から出てきた……あの、海にいた少女……？

アンシエル
えーと、どこだったかなあ……

◎アンシエル、部屋の隅を探し出した。
やがて、一冊のノートを探し出した。

アンシエル
あ、あったあった。

リナ
それは？

アンシエル
祖父の日記だよ。祖父は筆まめな人でね、どんなことでも、とりあえず書きつけておく人だったんだ。僕たちはこの日記を誰にも見せないように、と言われた。ここに書かれた真実は、決して明るみに出すべきではないから、と。

リナ
……さて、リナ。読む前に、御伽噺のおさらいだ。

リナ
……この街にある海の底に、カミサマが棲んでいる。

カミサマの心は孤独に耐えきれずバラバラになって砕け散り、その砕け散った心の欠片は、人の姿をもって、人間たちの前に現れる。彼らの容姿は白い髪に赤い目。その不気味な姿から、彼らは「忌むべき海のバケモノ」と呼ばれるようになる。

カミサマの心の欠片である彼らを海に還すことで、カミサマの心を元に戻さなくてはならない……

アンシエル
そう。では、僕が教えてあげたアドバイス……前提条件は？

リナ

不都合なことはすべて書きなおしてしまえる。

この街の今は、絶望の末に生まれた。そして、……その絶望は今も、この街を覆っている……でした、ね

アンシエル

素晴らしい。君は賢いから、もしかしたらもう、分かりつつあるかもしれないね。

◎ノートを開くアンシエル

リナ

この街の「今」は、カミサマの絶望から生まれた。

そしてその絶望は、人間が引き起こしたもので、その真実を隠すために、御伽噺をでっちあげた……？

アンシエル

……さて、では、答え合わせの時間だ。

この海の底に眠る御伽噺の、悲しい真実を、君に教えてあげよう……。

◎翌日の夜。海辺にて、シユエとカイトは会う。

シユエ カイト……？
 カイト……待ってたよ。
 シユエ ふふ……あなた、いつも来るのが、わたしより早いわね

◎シユエ、カイトに歩み寄る

カイト え……あ、そ、それは……その……君に早く会いたくて、つい急いでしまうんだ……なんて……
 シユエ ……ふふふ、本当に、さらっとそんなことを言うんだから……ふふふ
 カイト い、嫌かな……？
 シユエ まさか。……むしろ、嬉しいの。
 カイト ……ねえ、カイト
 カイト うん……？
 シユエ たとえ、……何か理由があるのだとしても……あなたと会えてよかったな、と思うわ。
 カイト ……理由？
 シユエ 前に言ったでしょう？ 夢を見るのだ、と……
 シユエ いつも「わたし」の傍にいて、「わたし」を幸せにしてくれる男の人は、
 シユエ あなたと同じ顔をしている……
 カイトもしかしたら、わたしとあなたが出会ったのは、偶然じゃなかったのかも、って……
 シユエ な、なんか、照れるな……
 カイト でも……

◎脳裏をよぎるのは、いつもの夢の結末。
 目の前で「あのひと」が死んでしまい、絶叫する少女の姿。

カミサマ いや……どうして……いや、いや……いやあ……!!!!

カイト ? どうした……？
 シユエ いえ……なんでも、ない……
 カイト カイト……
 カイト なに？

シユエ わたし……とてもおかしなことを何度も言っつて、あなたを困らせるかもしれない……
 カイト 今でも自分がなんなのか分からない……でも、前にも言った通り、あなたと一緒にいれば、
 シユエ 分かる気がするの。だから、……だから、傍にいさせて……？
 カイト ……駄目なんて、言う訳ないだろ？ その、……俺も君と一緒にいたい、って思うし……
 シユエ ……ふふふ、嬉しい。ありがとう……

◎海が揺れる。二人は月を見上げる。

シユエ
カイト
シユエ

月が、綺麗……
うん……
明日には、満月になりそうね。

真ん丸な、まるで目のような、銀の月……

◎ふと思い出す、「あのひと」との会話。

あのひと
カミサマ
あのひと
カミサマ

お前の瞳はあの月そっくりだな。丸くて、きらきら金に輝いて……とても美しい。
えへへ……あのね、あのお月さまは、私が海の中にいるときに、お外のこと教えてくれるの……へえ？
だからね、あなたが来たこともすぐ分かるんだよ。お月様がね、「あのひとが来たよ」って教えてくれるから……

シユエ
カイト
シユエ
カイト
シユエ
カイト

……月は、カミサマの、目……？ 本当は、銀色では、なかった……？
……？ どうした？
「海のわたし」は……人間の男に恋をした……海の、カミ、サマ……？
大丈夫……？
……あ、え、ええ……平気。
……明日の満月、一緒に見ましょう。ね……？
……ああ。

◎場面転換。暗く深い、海の底……

カミサマ

嗚呼……見つけた…… 見つけた、のに……どうして……

◎夜。リュウシンは、一人窓から空を見上げていた。

リュウシン

美しい月夜だ……明日には、満月になりそうだな。
……満月の夜には、いろいろと思いだしてしまう……

◎過去の海辺での出来事を思い返す。

リュウシン

……次生まれてくる時があれば、その時は……

リュウシン

……その時は、愛してもらえると良いな、とは確かに言ったが……
まさか本当に、もう一度生まれてくることになるとは、ね……
まあ、私の所為のようなものだが……

リュウシン

あの子を見てみると、どうしても思い出してしまう。
……私がこんなことを望む権利はないのだろうか……次こそは愛されて、幸せになれると良いね
……シュアン。

◎場面転換。リナとアンシエルの研究所地下。
アンシエルの祖父の日記を読んでいた二人。

アンシエル

……海の、いや、街の守り神のような存在が、一人の人間に陶酔するなどあってはならない。
そう思った祖父たちは、カミサマが恋した男を、殺すことにした。

リナ

そんな……!

アンシエル

愚かだよねえ。……しかもよりによって彼らはカミサマの目の前でその男を殺してしまった。
その結果、絶望したカミサマの力によって海が荒れ、街は滅びかける。
そこにきてようやく、人々は間違いに気づいた。でも、今更引けなかったのだろうかね。

リナ

……彼らは、……カミサマに、銃を向けてしまった。
な……カミサマの恋した男を殺すほどに崇めていたのに、どうして……!

アンシエル

さあねえ。……錯乱していたのか、……何にしても、自分勝手だよねえ……

◎回想。カミサマの絶望。

カミサマ

カイト、……カイト、カイトお……っ
いや……いやっ……いやああああ
!!!!

◎銃声が響き渡り、何かが砕け落ちる音がする。

アンシエル

そしてその日、月は砕け落ちた……

リナ

月が、砕け落ちた……？

アンシエル

月はカミサマの命……心臓みたいなものだったのかもしれないね。

アンシエル

カミサマは撃たれ、海へと沈んでいった。それを追いかけるように、

アンシエル

砕けた月も海へ溶けていった……

リナ

カミサマは……死んだのでしょうか……？

アンシエル

さあ……ともかく、海の荒れはおさまった。でも、金色だった月は銀色に変わってしまった。

アンシエル

祖父たちの罪の証として、絶対に許さないとでも言いたげに、銀の月はずっと、

アンシエル

空に浮かぶようになってしまった……

リナ

でも、彼らは……アンシエルのおじい様たちは、その罪を認めたくなかった……

アンシエル

いずれ人々は忘れるだろう。いつも静かな海が荒れたことも、暫くは語られるだろうが、

リナ

忘れ去られる。それまで知らないふりをしよう。そう思っていた……

リナ

でも……忌むべき海のバケモノが、生まれてしまった……

◎場面転換。海の底にいるシユエ（夢の中）。

シユエ

ここは……また、海の……

カミサマ

……待ってたよ……お帰り、なさい……

シユエ

……海のわたし……

カミサマ

どうしたの？ とても、しあわせそうな顔してる……あのひとを、見つけたの？

シユエ

え……？

カミサマ

ねえ？ どうして？ どうしてあなたは、そんなに幸せそうなの……？

シユエ

……

カミサマ

どうして……私が探してほしかったのは、あのひとなのに……

◎場面転換。リナとアンシエルの研究所地下。

アンシエル

白い髪に赤い目。カミサマとよく似た容姿の……けれど瞳が、

アンシエル

まるで怒りを宿しているかのような、あるいは……血のような色をした、赤い瞳を持つ者たち……

アンシエル

彼らを放置していたら、いずれ自分たちに危害を加えられるのではないか。

アンシエル

そう思った祖父たちは、例の御伽噺をでっちあげて、バケモノたちを海へと還し続ける……

リナ

自分たちの罪を認められず、カミサマが勝手に海の底へ隠れてしまったことにして……

アンシエル

なんて自分勝手な……

アンシエル

そして今、カミサマと同じ容姿をした少女が生まれてしまった……その子は、まるで君の妹の

アンシエル

記憶を持っているように見えたんだよね？

リナ

え、ええ……

アンシエル

その子は、忌むべき海のバケモノたちの記憶を、全て持っているのかもしれないね。

アンシエル

バケモノは、カミサマの一部だから……

リナ

……そもそもどうして、バケモノたちは現れるようになったのでしょうか？

アンシエル

彼らに復讐をするためであるのなら、今更海に出てきても、もう……

アンシエル

さあ……祖父は調べるのを完全にやめて、罪を隠ぺいした。だからカミサマが海に

アンシエル

沈んでしまったあとのことは、謎に包まれている。

アンシエル

でも僕はね、こう思うんだよ。

リナ

……

アンシエル

カミサマは、もう一度、好きだったあのひとに、会いたいだけなんじゃないかなって

リナ

…：そういえば、彼女は海で一人の青年と親しげに言葉を交わしていました。もしかして、それが…：

アンシエル

…：明日は満月だ。カミサマと同じ容姿をした少女が、一人の青年と出会ったというのならば…：何かが起こるかもしれないね。

リナ

もしそれが、…：この街を終わりに導いたとしても、君は、受け入れられる？ 何故、そんなことを聞くんですか？

アンシエル

今ならまだ間に合う。今ならまだ、その少女に明日を迎えさせずに済むよ。

リナ

…：あなたらしくもないことを言わないでください。

そんなことをする気なんてないくせに。

アンシエル

ははは…：僕は、祖父の罪を背負わされたからねえ

…：カミサマに償う覚悟はできている。でも、君や、今この街に生きている人々に決して罪はない。それでも、…：一緒に明日を待つてくれるかい？ リナ。

リナ

ええ、もちろん。私はあなたの部下ですから。

ずっと知りたかった真実の顛末を、あなたと一緒に見届けます。

…：たとえ、どんな結果になったとしても。

◎満月の夜。海辺で月を見るシユエとカイト。

シユエ ……綺麗な、満月ね。

カイト そうだね。

シユエ あの日も、満月だった……あなたとはじめて出会った日……

カイト え？ 君と出会った日は……

シユエ そうね。「シユエ」とあなたが出会った日は、満月ではなかった。でも……

「わたし」と「あなた」が出会った日は、満月だった。

そして……わたしがあなたを失った日も、満月だった……

カイト ……？ 言っている意味が、よく分からないんだけど……？

シユエ この海の底には、孤独なカミサマが眠っている。あなたも知っているでしょう？ 御伽噺を。

カイト ああ、うん。この街に昔から伝わる物語だからね、知らない人はいないよ。

シユエ もしそのカミサマが、ここにいるとしたら？

カイト え？

シユエ わたしはずっと、自分が何なのか分からなかった。

対峙する相手によってわたしの記憶は変化してしまって、本当のわたしの「記憶」なんて

なかった。でも、あなたと出会って、わたしはようやく、「わたしの記憶」に気づけたの。

カイト ……

シユエ カイト。わたしは、あなたと一緒にいたい。でも、わたしには、役目がある……

◎シユエ、海に向かって歩き出す。

カイト 役目……？ ! どこへ行く気だ？

シユエ あなたと一緒にいるために、為すべきことがあるの。だから……

◎海が荒れ始める。

カイト !? 海が急に荒れて……! そこにいたら危険だ、シユエ……!!!

リュウシン シユエ……!

◎茂みを掻き分けてやってきたリュウシン

カイト !?

リュウシン 急に海が荒れ始めたから何事かと思えばやはり……!

シユエ シユエ、海へ還るつもりか……!?

シユエ 大丈夫です、伯父上。必ず戻ってまいります。

リュウシン なっ……シユエ、シユエ……!!!

◎ 荒れ果てる海が、シユエを包み込んでいく……
場面転換、海の底へとやってきたシユエ。
目の前で、一人の少女……海のカミサマが嗚咽をあげている。

カミサマ (嗚咽)

海のわたし……本当のわたし……

シユエ ……あのひとは、どこ……？ 今度こそ、連れてきてくれたの……？

シユエ あのひとは、もういない。

カミサマ ……あのひとは、わたしの目の前で死んだ。わたしが恋をしたばかりに、あのひとは……

シユエ 嘘……そんなの嘘……

カミサマ 真実から目を逸らしてはいけない。何も見たくなくて、目を瞑っても、白きバケモノ……

シユエ あなたの半身たちに、あのひとを探させても、あのひとは戻ってこなかったでしょう？

カミサマ (嗚咽)

シユエ ようやく戻ってきた海のバケモノは、あなたの願いを叶えることはなく、自分だけが幸せになり

カミサマ あなたを置いてもう一度生れ落ちた……そうなのでしよう？

シユエ ……っ……

◎ 耳を塞ぐカミサマ

シユエ もう一度生まれたバケモノは、海の外で、あのひとを見つけた。

カミサマ あなたと同じようにあのひとに恋をして、あのひとに愛された。

シユエ でも、あなたの願いが叶ったことにはならない。……わたしは、あなたではないから。

カミサマ ……どうして……

シユエ ……わたしは、わたしでありたい。「わたし」として、あのひとと一緒に生きていきたい……

カミサマ どうして？ あなたはわたしだった……わたしから生まれ、わたしの願いを叶えるために

シユエ 生まれた……それなのに……っ！

カミサマ ……カミサマ、

シユエ わたしは、ただ、カイトと一緒にいたかった……一緒に空を見上げて、お月さまがきれいだね

カミサマ っってお話をして……それだけで、良かった……

シユエ わたしの願いは、何故叶えてはいけないの？ カミサマだから？ 人間じゃないから？

カミサマ どうして、あなたなら許されるの……っ!! (段々と怒りを露わにしていく)

シユエ ……

カミサマ あなたはわたし もう一度あのひとを探し出して、今度こそ一緒にいるために生み出した存在……

シユエ それなのに、どうして……あなたがあのひとと幸せになろうとするの……！

カミサマ わたしと同じ容姿をしているのに、あなたは何故、あのひとと共に在ることを許されるの!!!

シユエ ……わたしはもう、あなたではない。

カミサマ あなたの記憶も、他のバケモノたちの記憶もいらない。「わたし」という存在になりたい。

シユエ 誰と対峙していても、ただの「わたし」のままでありたい。

カミサマ そんなの、許さない……っ！ わたしは幸せになりたいの、カイトと一緒に……

シユエ あなたの好きだったカイトは、もういない。

カミサマ あなたの目の前で死んでしまった。あなたが恋をしたばかりに、殺されてしまった。

シユエ もう2度と、会えない。

カミサマ ……っ

シユエ あの日、あなたも撃たれた。でも、あのひとにもう一度あいたい。あのひとと幸せになりたい。

カミサマ その願いが、あなたを生かした。でも、こんな暗い海の底であのひとを待ち続けるのは、

シユエ もう嫌でしょう？

カミサマ

ここなら……ここならもう、あのひとは誰にも何もされない……
ずっとここで生きていくの、二人で……

シユエ

あなたは昔、「人間の女の子ならばずっと一緒にいられるのかな」と思ったことがあるはず。
……わたしがその願いを叶えてあげる。

カミサマ

……え？

シユエ

あなたが生み出した、あなたの願いの欠片たちと同じように、わたしと一つになるの。
あなたが昔望んだように、一人の人間の女の子として、あのひとと幸せになりましょう。
……

カミサマ

真実から目を背けないで、受け入れて。銀の月を、金色に戻しましょう。

シユエ

あのひとが好きだと言っていた金の月の下で、あのひとと生きていきましよう。

カミサマ

あのひとが……好きだと言っていた……

◎カミサマは思い出す。あのひとの言葉。

「……ああ、好きだ。 とくに今日みたいな満月は。

満月になると、お前がより一層美しく輝くから、な。」

シユエ

おいで、カミサマ。 海の底に眠る真実を、空に還しましょう。

そして、……今度こそ、しあわせに、なりましよう。

◎シユエ、カミサマにむかって手を差し伸べる。カミサマ、その手に自分の手を伸ばす。

二人の手が触れ合った瞬間、暖かな光が溢れ、二人を包んでいく……

カミサマ

……カイト……また、一緒に……

◎場面転換。海の外。

リュウシン

……！ 月が、金色に……！

◎突然海から光がほとぼしり、銀の月が金色へと変化した。

海のほうから、シユエがゆつくりと歩いてくる。カイト、シユエに駆け寄る。

カイト

シユエ……っ！ 良かった、戻ってきてくれた……！

シユエ

……カイト……

カイト

！ 君、髪の色が、黒く……

シユエ

……これでやっと、あなたと一緒にいられる……

◎シユエの髪が、黒に変化していた。嬉しそうにその髪に触れるシユエ。
そこに近づいてくるリュウシン

リュウシン

……シユエ、

シユエ

(普段のシユエのまま) 言ったでしょう? 必ず戻って来る、って……

リュウシン

ふふふ、母上の愛する「雪のように真っ白な子ども」ではなくなってしまうたけれど……

……髪が黒いと、まるであの子のようにだ。……きっとその姿でも、愛してもらえるよ。

今度こそ……

シユエ

そうだと、嬉しいな……

◎場面転換。海の傍の森から一部始終を眺めていたリナとアンシエル。

アンシエル

……はあああああ……良かったあ……

◎力が抜けたらしく、その場に座り込むアンシエル

リナ

ええ、本当に……

アンシエル

ああ、怖かった……強がってたけどさあ、正直めちやくちや怖かったんだよね……

リナ

ふふふ、顔が真っ青ですよ。

アンシエル

……綺麗な女の子。きつと、幸せになれるわね。

リナ

だいたいねえ……ふう……カミサマや他のバケモノたちがどうなったのか分かんないけど……

アンシエル

多分、悪いようにはならなかったんだろうね。良かった良かった……

リナ

これで、アンシエルのおじい様の罪も、清算されたのでしょうか?

アンシエル

……いや、まだだよ。

リナ

これから、この金色の月の下で、あの二人が、そしてこの街が、

アンシエル

幸せになれるように尽くさないよ。

リナ

……ふふふ、そうですね。お供しますよ、アンシエル。

アンシエル

それは頼もしいなあ! ……じゃあ、……これからもずっと、一緒にいてもらおうかな。

◎朝。リナはアンシエルを起こしに来た。

リナ ……アンシエル、……アンシエル！
アンシエル んんんん……？

◎ベッドの上でもぞもぞと動くアンシエル。

リナ いつまで寝てるんですか。 もうお昼ですよ！ だらけすぎです！
アンシエル ええ……いいじゃない……今日はお休みだよ……
リナ 休みじゃなくてもいつもだらけているでしょう……本当にあなたは……
アンシエル あれえ……リナ、今日はお洒落だねえ……かわいいよ……
リナ はあ……ご機嫌取りをしようとしても無駄ですよ。
……今日は海のお祭りでしょう。 海のカミサマへの感謝と謝罪をするための！
あなたが考案したんでしょうが。
アンシエル ああ、そっか……そうだったねえ……（欠伸）
リナ まったくもう…… 本番は夜ですが、朝からみんな準備をしているんです。
考案者であるあなたが手伝わないでどうするんですか。 ほら、行きますよ！

◎布団を無理矢理はぎとるリナ

アンシエル ひええ……鬼嫁え……
リナ 鬼嫁で結構です。 ほら、さっさと起きて！

◎場面転換。海辺、お祭りの準備で騒がしい。

シユエ ふふ……みんな楽しそうね。
カイト うん。 みんな、毎年この日を楽しみにしているからね。
シユエ あ、ねえ……最近、お母さんはどうなの？
カイト お母様は、いつも通り、まだまだ心配性よ。 でも……最近は、リュウシン様がうまく宥めてくれるから、お昼でもこうやって、お外に出られるわ。
シユエ そっか、良かった。
カイト ……時々、本当にこれで良かったのかな、と思うときもあるの。
シユエ 今でも、生まれる度に海に還されてきたバケモノたちが報われたのかどうか分からないし……
カイト 彼らには彼らの、願いがあったのだから……
シユエ ……でも、彼らは海に還されて、君の中に存在するようになったんだろう？
カイト 君が幸せになったのなら、彼らもきっと、幸せになれるんじゃないの、かな……？
シユエ だと、良いな……

◎場面転換。夜の海辺。お祭りが始まるうとしている。

アンシエル

……はあああ……疲れたよう……

◎疲れ果てた様子で椅子に腰掛けるアンシエル

リナ

いい運動になったでしょう。

アンシエル

もう1年くらい動きたくない……

リナ

……あなたって人は……

◎場面転換。シユエとカイト、そしてリュウシンの3人は海辺にいる。
リュウシンは複雑な面持ちでカイトを見ている。

リュウシン

……

カイト

あ、あの……

リュウシン

……（睨む）

シユエ

……リュウシンさま、そんな怖い顔をしないで……

リュウシン

いや……今更ながら、なかなか複雑な気持ちでな……

シユエ

……ふふふ

リュウシン

……。……この子は、私が不幸にした子どもだ。

カイト

だから幸せになってもらいたい。……君はこの子を幸せにできるかね？

リュウシン

は、はい……！

カイト

本当だな？

リュウシン

はい！ 俺が必ず、幸せにします……！

カイト

……（睨む）

シユエ

う……（怖い）

シユエ

……ふふふ！ もう、二人とも……お祭りの夜くらいは、仲良く過ごしましょう？

◎海が揺れ、お祭りの喧騒が大きくなっていく……
エンディング

シユエ

……この海には、御伽噺がある。海のカミサマは、一人の人間と恋に落ちた。

シユエ

二人は一度引き離されてしまう。人間たちの手によって。

シユエ

けれど、とある満月の夜。二人は再び、出会ったのだ。

◎場面転換。あつたはずの過去。あつたはずの未来。

カミサマ

ねえねえ、今日もきれいなお月さまだね！

あのひと

そうだな。……なあ、

カミサマ

？ なあに？

あのひと

……愛している。ずっとずっと……

カミサマ

え？ な、なあに、急に……

あの、えへへ……えっと、あの、あのね……わたしも……

カミサマ

……わたしも、あなたのことが大好きだよ、ずっと！
だからね、……ずっと、一緒にいてね。

あのひと

ああ、もちろん。……一緒に生きていこう、ずっと。

Fin.